

高幡地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成21年9月1日10:00～12:00

場 所：須崎総合庁舎5階会議室

1. 議 事

(1) 全体スケジュール等について

次の資料の概要説明を行う(説明：岡元振興監)

- ・産業振興計画フォローアップ体制(資料1)
- ・高知県産業振興計画フォローアップ委員会設置要綱(資料2)
- ・地域アクションプラン取組追加フロー(資料3)
- ・産業振興計画の今後の進め方について(案)(資料4)

(2) 地域アクションプランについて

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

既存APの進捗状況の説明(竹林総括)

- ・高幡地域アクションプランの進捗状況等について(資料5)
上半期の高幡地域の38アクションプランの進捗状況を説明
産振補助金該当のAPが5つ、アドバイザー活用が8件。
新規追加APはなし。地域本部へAP関連問い合わせが15件。
- ・地域アクションプラン(高幡地域)進捗管理シート総括表(資料6)
38APのうち、重点化するAPと進捗度が△のAPの概要を説明。

2) H21年度・22年度の追加に向けての検討項目について

四万十町におけるAPの芽出し部分の説明(吉森総括)

- ・桧の間伐集成材を使った地産外商ビジネス(大正町森林組合)(資料7-1)
- ・有機野菜を使った加工品の開発・販売(桐島畑)(資料7-2)
- ・地域アクションプランの追加を検討している項目について(資料7-3)

【意見交換】

・フォローアップのシステムで心配しているのは、各市町村に差があるので連携していくかどうかが大事だ。今回の大正町森林組合の集成材の取り組みは橋原も協力できる部分があるかもしれない。

同じ市町村内でも連携できないと、チーム長も町村の担当も企画員も困るので、それぞれ取り組む団体との連携をうまく図って行って、地域の中で一体的に取り組めるようなことをしなくてはいけない。

→おっしゃる通り。いつもそういうお話を聞きながら、なかなかそこに至ってないのが現状だ。横の連携が取れてないのは、本部としては反省すべきと思う。

やはり各事業を進める方々もチーム長と意見交換をより高密度にやっていただくことも、是非お願いをしたい。地域本部としては今後できるだけ時間を取りながら、働きかけていきたいと思うし、事業主にもそういう協力をお願いして、連携が取れるようにしていきたいと思っている。

・大正森林組合の集成材工場の話を出してもらって有難いが、要望を出してもすぐの対応ができていない。例えばひとつ取り上げると、輸送の面のトラックのことはどうなっているのか。

→大正町森林組合の集成材工場の要望は、組合とお話させていただいて12月のフォローアップ会議で正式なアクションプランとして出させていただく形で考えているのでご承知おきいただきたい。

・JA四万十が四万十町興津で木質バイオマスのボイラーをハウスの加温のために設置する計画が出てきており、国のグリーンニューディール事業として進んでいるが、問題点として、重油の価格と比べ状態によっては木質バイオマスのボイラー使うと逆に非効率になるという状況も一定考えられると思う。

聞くとところによると3年間は国がその差額を補填する事業のようだが、7年の利用期間が設定されており、3年後以降にそういう補填がないとした時に、仮に重油の方が有利な場合の対応は考えているのか。

また、地産外商としていろいろな高知のものを売っていくということであるが、目標値をどれくらいに設定しているのか。

→このバイオマスの7年間の事業の関係は林業事務所に情報がないので推測しかできない。確かに3年間は何かの形で補填があると聞いているが、7年先までどうするか決まっていなくて、今その中身の確認を9月の議会に向けて詰めている状況だ。

全体を把握してから関係者に説明することとなる。

・今も橋原ではバイオマスにペレットを使っており、ホワイトペレットでないといけないという話を聞いたが、この供給が県内で確保できない時期もあると聞いており、県外に依存する時期もあるような話も聞く。せっかく地元が取り組んで地産外商できる方法もあるのもったいないと思う。

→ホワイトペレットと全てを混ぜ合わせた全木ペレットがどうなのか、炉によって環境汚染につながるという事もあるんじゃないかとまで言われている。一方で、山の資源を使う事が必要だという意見もある。そういった事を全部合わせて研究もさせていただいて皆さん方に安心を与えるという事にしないといけない。

そのためにも、高幡地域は認証森林を3年のうちにつくるべきで、排出権取引をすることで山の資源が還元されるシステムになるので、今のうちから助成をして安定的なペレットの供給ということを考えていかないといけない。

- ・東京都の森林組合との取引を始めており、営業マンを半月程東京都の森林組合の方へ派遣して、それで半月ずつ向こうへ行くように計画をして、東京の市場開拓、営業マンを送るようにしている。また、兵庫県や広島県などからも集成材工場などの視察が増えている。

地域はほとんどが民有林で境界が確定しておらず、まだ国土調査も遅れているが4、5年のうちには地産外商を進めていかなければ組合の今後の経営が難しくなる。できるだけどんどん手を広げて収益を伸ばしていきたい。

集成材というものを本当に理解している人は少なく、皆さんも機会があれば見てもらいたいと思う。

→先ほどご質問でこの地産外商の目標値、あるいは販売目標をどれくらいで設定しているかという質問をいただいたが、商品の計画とか色々個々具体的に違っているので、目標値は設定していない。

- ・スラリーアイスの施設が今度中土佐町にできるようになっているが、他の事業で使いたい場合もあり、制約なく使用させていただくわけにはいかないか。

町の担当者はスラリーで補助金を受けているので、それ以外のことをやると補助金の対象としては補助を受けにくいし、他の事をやると都合が悪いと言う。

例えば、大手のピザ専門店で鰹のペーストを来年度使っていただくこととなっており、来年9月に販売をしてみるという事で今進んでいる段階であるが、衛生面から市場でカツオを捌くことが難しくなっている。

別にプレハブを建てて横でやるよりはずっといいと思うので、特にスラリーアイスの施設をもう少し拡げて、何ができるか取捨選択を少しやった方がいいのかなと思う。

また、ハモやウルメなどの漁業施設の基地という意味もあるので、県の職員がもう少し話し合ってみてまとめていく作業が多少あればいいと感じている。

→必要に応じてアクションプランをまとめていくという事はあると思う。スラリーアイスの事業について、補助金の採択をする時は、中土佐町で捕れる魚の鮮度保持をどうしていくかという実験をする事業となっているので、それを超えて色々な事をその中でやっていく事については事業計画の変更をする必要がある。

まず事業主体として補助申請をしている町の考え方を整理していただく事が必要になってくると思う。

- ・貴重なご意見をいただいた。連携の問題、スピード感の問題、或いは色々な幅広い検討課題があったが、できれば12月の会議で1つでもアクションプランとしてあがるような取組に進めていきたいと思うので、どうぞよろしくご協力いただきたい。

(3) 産業成長戦略について

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

産業振興計画の取り組み状況について(資料8)(計画推進課長説明)